

幼稚園保護者教室

大阪市学校歯科医会 常務理事 岡本卓士

大阪市学校歯科医会は、歯の健康のための講演会（幼稚園保護者教室）を幼稚園の保護者を対象に行っています。生活習慣の基礎が形成される幼稚園の時期に、園児たちが、歯と口の健康づくりをすることにより、むし歯予防だけでなく、健康な体づくりや健康な生活を送れる子ども達に育ててほしいと願っています。そのためには、歯と口の健康のための正しい知識を活かした「歯と口の健康づくり」を家庭でもできるように環境を整え、子どもと一緒に QOL の向上を図ってもらうのが最善の方法です。幼稚園保護者教室はそれを達成するために開催しています。

幼稚園の保護者教室の歴史

昭和 44 年の歯の衛生週間行事として、「子どもの歯を守る懇談会」の名称で、市学歯から派遣された講師により、お母さん方を対象にした保健指導として始まりました。昭和 47 年からは、幼稚園と小学校に申し込み用紙を配付して、保護者を対象にした講演会の希望校園を募ったところ、34 校園（幼稚園 8 小学校 26 校）の申し込みがあり、理事や地元役員が講師を務め、「子どもの歯を守る懇談会」が正式にスタートしました。また、市学歯

と大阪市 PTA 協議会が主催し、市教委と大阪市学校保健会の後援で、市学歯の年間行事として、40 年近い歴史を築いています。業績としては昭和 47 年から平成 18 年までの 34 年間で、延べ 607 園の幼稚園、653 校の小学校合計 1260 校園での開催という実績があります。

幼稚園では、昭和 63 年から「幼稚園の歯みがき指導」が始まりました。これによって、派遣された歯科衛生士による園児への歯みがき指導が行われるようになりました。お母さん方が歯みがき指導の様子を見学できるのが特徴です。折角の機会なので、お母さん方に「何か歯の話しをしよう」ということになり、平成 4 年から「母親教室」の名称で開催されることになりました。

従来の「子どもの歯を守る懇談会」の幼稚園部門を「母親教室」として独立させて、園児への歯みがき指導が行われる 6 月に、一緒に開催することになりました。

この時に 1 つの問題が起きました。「子どもの歯を守る懇談会」は 6 月から次の年の 2 月までの 9 ヶ月間という長い開催期間に 30 校園が分散されていたのですが、幼稚園の「母親教室」は毎年 6 月に実施され、20 園近い申

し込みがあるために、理事の中には1ヶ月間に5園も講演を担当するという過酷な状況となりました。そのような事態を打開するために、園医の先生に講演を依頼することになり、そのための研修会を開催しました。

なお、「母親教室」の名称は平成13年に「保護者教室」へと変更し、平成18年からは、理事の派遣を完全に廃止して、幼稚園の園医または同支部内の学校歯科医が講演を担当しています。

幼稚園保護者教室で行われた講演内容

平成8年から、母親教室の執務状況を把握するための報告書を提出してもらっています。

報告書の内容は①演題 ②講演内容 ③保護者からの質問内容 ④感想と課題についてです。保護者教室の様子を紹介するために、演題と講演内容の2つについて集計した結果を報告します。(資料参照)

保護者教室の講師変更の経緯

この保護者教室は、4月から申し込みを受け付けて、5月の連休明けに日程が決まり、1ヶ月後の6月に講演をします。短い準備期間で、毎年開催されます。派遣される理事は、まず、講演の前に養護教諭と講話内容について打ち合わせを行います。講演内容の依頼があればよいのですが、「内容はお任せします」と言われると園児の実際の口腔状態を知らない幼稚園でど

のような講演をすれば良いのか分かりません。ある幼稚園の保護者教室で「むし歯の原因や予防について」の講演をしたのですが、その幼稚園では保健指導に熱心で「むし歯はほとんどないので、歯の生えかわりや歯並びの話しをしてほしかった」という感想を言われたことがありました。そのようなことが起こらないように、園児の口腔内状態を把握している園医の先生にさせていただくことになりました。

そのために市学歯は、園医だけでなく他の学校歯科医の先生方にも「学校歯科保健教育に積極的に係わって頂きたい」という方針を打ち出し、下記のような事業を行いました。

1. 会員研修

平成15年11月15日(土)に開催
演題「保護者対象に講話するには」

学校現場で講演を担当する際の準備や注意事項と幼稚園・小学校・中学校での講話例を紹介しました。

2. 学校歯科保健に関するアンケート調査の実施

平成16年7月に、市学歯会員の学校現場での講話などの実施状況を調査しました。その結果と分析考察は冊子にして翌年の6月に発行しました。

3. 幼稚園保護者教室説明会の開催

・第1回 平成17年5月14日(土)

・第2回 平成18年5月20日(土)

両方とも、60名の園医を対象に、

講話のための準備や具体的な講演例や、過去に保護者教室の講師を務めた園医の経験談等が紹介されました。

4. 幼稚園保護者教室講話ファイルと解説書の作成

園医の先生方が保護者教室で講話をする際の条件を整えるために「幼稚園保護者教室講話用ファイル」を作成し、第2回の保護者教室説明会の時に園医に配付しました。保護者対象に講話をする際に最も重要と思われる項目のむし歯予防編27枚、咀嚼編24枚、食生活編33枚、合計84枚の写真や図表を入れたCDです。

また、この84枚のスライド1枚1枚でどのような話をすればよいのか説明文を記載した解説書も作成しました。子育ての中の保護者に知って欲しい事柄ばかりです。このCDと解説書は60名の園医だけでなく、理事や支部長、学術部員にも配付していますのでご活用ください。以上のような、事業を通して、園医の先生方が幼稚園で講演を担当できるように手助けをしています。

子育て中のお母さんを励ますのに「お母さんは最高の歯医者さんである」という言葉があります。子どもが

歯みがきをした後に確認したり、仕上げみがきをする際には、お母さんは「かかりつけの歯医者や歯科衛生士」になったつもりで、口の中を観察したり、仕上げみがきをしてあげてくださいという意味になります。そして、歯みがきした状況を評価して、少々下手でも誉めてあげるのが大切です。そうすることによって、子どもは自分が一番信頼しているお母さんから評価され、自信がつきセルフエスティーム（健全な自尊心）形成されます。大好きなお母さんにもっと誉めて欲しいからやる気を出して、さらに上手に歯みがきをしようとがんばるに違いありません。このような母と子のふれあいによって、園児の人格形成において「健康観の育成」の一番コアな部分ができると思われまます。

子ども達が幼児期からの歯・口の健康づくりを通して、心と体の健康を視野に入れた「健康観」と「生きる力」を育み、自分で自分の健康管理ができる子どもに育つように、私たち大人が子どもたちを暖かく見守っていきましょう。

資料 幼稚園保護者教室 講演の演題と内容一覧表

<演題>

- ・ 食べて育つ子ども達 —食べる機能の育成を目指して—
- ・ 噛む子 噛まない子 噛めない子
- ・ 歯みがき指導と食材について
- ・ むし歯予防の新しい考え方とそれを子どもに反映させるには
- ・ 子どものむし歯予防は良い生活習慣から
- ・ 園児児童の歯科保健
- ・ 3歳児から6歳児の歯の状態とその注意点
- ・ 現代のカリオロジーの考え方
- ・ 歯の生えかわりの様子とむし歯予防について
- ・ 他にもあった歯みがきの大切さ
- ・ 幼児期～学童期の歯について アンケートに答える
- ・ 口腔衛生と全身疾患について
- ・ むし歯と生活習慣
- ・ 日常生活と歯の関係
- ・ 身につけよう、子どもの歯を守る良い生活習慣
- ・ 人の歯のかたちとその食性
- ・ 食事とむし歯について
- ・ 口腔の健康診断とう蝕予防
- ・ 仕上げみがきについて
- ・ 妊娠中から6歳までの歯の生えかわりの様子と注意事項
- ・ 子どもの歯を守るために
- ・ 健康な体は健康な歯から

<講演内容の上位>

1. むし歯予防	22回	19. DMFT 指数	4回
2. 食生活	16回	20. GO	3回
3. 歯みがき・歯ブラシ	15回	キシリトール	2回
4. 噛むことの重要性	13回	外傷	2回
5. むし歯の原因	11回	8020	2回
6. 歯列不正・矯正	10回	ヘルスプロモーション	1回
6. 歯肉炎	10回	学校歯科保健	1回
6. 唾液	10回	習癖	1回
9. 歯のはえかわり	9回	しつけ	1回
10. 再石灰化	8回	生きる力	1回
10. おやつ	8回	口臭	1回
10. 生活習慣	8回	3歳児健診で気が付いたこと	1回
10. 第一大臼歯の大切さ	8回		
14. 食品(栄養)	7回		
14. CO	7回		
14. 歯の治療	7回		
14. フッ化物	7回		
18. 顎関節症	6回		